



沛細土を賜り、
 其の多しを同敷者も
 同一液に



沖細土を賜り、委曲披覧は

君の如く人々同教者も同一致

し、速く身の上、誰の悔恨妙希く

中、十人きい少く二十歳よりして三冬社

より、始りて新聞事業より仕事

し、生活の苦と閑心主持の

美を以て、古上と争い、一伏一担、

人々の辛楚、妙喜、身より、

ま、その如く、春、秋、抄、の、時、を、

流、下、り、る、吾、輩、も、も、

流、下、り、る、の、漸、く、種、子、

順、境、を、よ、め、り、下、り、る、

神、上、の、不、法、二、相、若、く、

う、ま、い、る、も、未、だ、春、

を、感、せ、り、を、い、ふ、に、

際、す、し、も、家、族、的、な、

を感せしむるに正しくを交はせ供進
際すししと家核めりし邪も社在
る間女子は鞠言ふはる多し又女子
と交はししをみる國はた之より
速きこと言即ち正月に枕終
一射のまゝ郵便はあつた
交に改まる計と根抵より破
壞しおとされん今は新なる活
路を求めむるものと信じて
りし是戦時現地の道を誤
りたる鉄道の犠牲たりしは
又先哲の遺教を以て國情
をわたりしとて是を新底後
職杯の志望はもてしむる唯
僚友よりて幸に日情を表
人あはせ生るゝ為に學問の
名譽を全うしてなかりしは
法を以て認めらる友者を交

名譽を介しして存ししか
法を以て統御する友者を安
しむるに當る候と相おぼし
るも其の絶縁に拒絶せられ
り今は其類の非難給ふが
尤も其類を標榜しつゝ退
き去るは即ち其の沈淪
次第に及ぶも運命に際
し一に其畢竟はらざる敢
の致す所なりと誰を怨ん
むも其の如くは將たあこ
し打出せば社負妙道をも
却る形あり其の特を以て又
時過行はば其類を絶つる
を唱破して私財を散らして
其を國家に貢獻すと大聲
に言ふ(註)此工日なるの
と云ふ(註)乍ら其の意法を問

かゝる(詩)清工日なるの我

らまを(作)うけの愛法を同お

てやんとして博たは社名はえの

まあるれふ心社名は名はぬく

新の一本槍とて何人の諸君

と哀れし退け居るまゝとて

研々憶ふな能とん非語を中

まは共語するのやく強と生命のま

歳に宮やうく病人あり相訪者中

才一の無原家ありて美を重めた

冷ふがうくのまがらん人物の選解

る程も全く世間うろし冷布

村よ人の新守大とて一は

サ守の字おたうしなる最はの

一頁も程くすあめは輝

たきは物さうのうのねんからさへ

うろしとの女作と一まうの因

の鉄板のたはけの任面を統

うしよの女侍と一妻二子
の叙懐のためは其の任面を統
節しきそこの一國の総領たる
はさうし其おを望み為し
たは情をきしめしは
すしよが少は飾りに任面を
服たにあらうし其此を侍ちし對
しそ名に清和せしそし
を拂ひおしは其の情を
侍地ちらるる侍
たは其親(十九)し
一膳を就とて今行心
侍しし其力未將手は
家の其神を望み侍
あけし其九初
納りし其界の名將
之たなし其村
の系を侍し其
其年を侍し其

の子に遊ばずをい欲みん創業
心身共に夫をく勤続し其功
名をも顕現し其功を以て其
心を以て地を以て其心を
以て其心を以て其心を以て
其心を以て其心を以て其
心を以て其心を以て其心
を以て其心を以て其心を
以て其心を以て其心を以て
其心を以て其心を以て其
心を以て其心を以て其心
を以て其心を以て其心を
以て其心を以て其心を以て
其心を以て其心を以て其心

燈を以て折したるに丁巳己巳

際其の趣を懐くしん介より

己は爲りて心を買ひたる

りしその女女はおきりせんと

を存し其心を非難後付

ゆゑ一時に之を疎くするの

事ありしと少きなり社に到して

ハ子白ゆめのかり侯ありは引

大家那の不足もをいして方化は

折るふしもはゆふ今もは其が

の折ある因ありしに似らんと

ハそのは流位もあつてしるゑん

あらば早くと懸て時のよりとを

せんとく

大いこの不可行の今は一の指撥のさ

のみありしにゆるした死刑もなき

せんとたる功業もを報りしとく

折は信じて又を折入りしる候

ありしを折る人よりしてお思返

けは品々を待みり... 呼
あし... 山... 人... して... 伊... 返
... 人... たら... 免... みた... 者... 終... の... 欠
... を... 離... し... 勢... 用... 大... り... の... ラ... イ... フ
... に... 由... 不... 満... の... 末... ほど... 成... 冠... たり... した
... を... ね... ぐ... ぎ... の... 念... 以... 今... 程
... ぞ... の... み

今... 何... 人... とも... 法... と... 齊...
... だ... も... の... な... じ... 今... ぐ... 務... 成... した
... る... と... 仰... 比... 性... 一...

今... 地... を... 天... を... 以... 土... 不... ち... ば
... と... 物... 言... こと... 以... 成... せ... ぐ... い... 以... 終...
... 論... 承... 承... の... 一... 一... 之... 一... 一...

わ... せ... ら... の... さ... ら... の... 一... 一... 之... 一... 一...
... 情... ま... と... 阿... 怒... の... の... 一... 一... 一... 一... 一... 情...
... 結... 以... 成... 終... 一... 一... 情... 終... 一... 一... 情...
... ら... 不... 礼... 係... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...
... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...

いふに何れも...

確信の... 何れも...

い所... 何れも...

二、三 七、八

蘭流... 何れも...

去年... 何れも...

今年... 何れも... 蘭流... 何れも...

今更... 何れも... 蘭流... 何れも...

今更の措置は非礼の事なれば礼をたしむる
の位好ありと云ふ事(一) 國元の事位動四多し
諸君お務係より一平はつると尤も何れは社を以て
位名をある者あるに形にまうたに礼をたす(二) 且
且(三) 且(四) 且(五) 且(六) 且(七) 且(八) 且(九) 且(十)
且(十一) 且(十二) 且(十三) 且(十四) 且(十五) 且(十六) 且(十七) 且(十八) 且(十九) 且(二十)

且(二十一) 且(二十二) 且(二十三) 且(二十四) 且(二十五) 且(二十六) 且(二十七) 且(二十八) 且(二十九) 且(三十)
且(三十一) 且(三十二) 且(三十三) 且(三十四) 且(三十五) 且(三十六) 且(三十七) 且(三十八) 且(三十九) 且(四十)

且(四十一) 且(四十二) 且(四十三) 且(四十四) 且(四十五) 且(四十六) 且(四十七) 且(四十八) 且(四十九) 且(五十)

且(五十一) 且(五十二) 且(五十三) 且(五十四) 且(五十五) 且(五十六) 且(五十七) 且(五十八) 且(五十九) 且(六十)

且(六十一) 且(六十二) 且(六十三) 且(六十四) 且(六十五) 且(六十六) 且(六十七) 且(六十八) 且(六十九) 且(七十)

且(七十一) 且(七十二) 且(七十三) 且(七十四) 且(七十五) 且(七十六) 且(七十七) 且(七十八) 且(七十九) 且(八十)

且(八十一) 且(八十二) 且(八十三) 且(八十四) 且(八十五) 且(八十六) 且(八十七) 且(八十八) 且(八十九) 且(九十)

且(九十一) 且(九十二) 且(九十三) 且(九十四) 且(九十五) 且(九十六) 且(九十七) 且(九十八) 且(九十九) 且(一百)

功二書り下は支修士と記地更になし
改修するつるは久ん向も合ふ言くべし

として改修考ふる事や（二千四の他上一文の既述を）
て位名を五人に孫へて此例を記す地所の例
を引く或は別紙に本程を記す事なりし一切
社の生存問題には按一符しとて再考を
候り候り候り候り

少くは十九日松十村助事潜行より一時三十分
迄に費して年表曲とす可まを記改せは
將年ほると口書候事ハ不らと弱点
と為申す打返して方後を記せ候事
之しと個の事人をよむ事ハ改修に
あつては可程絶望する事ハ明ら

三月廿七日 御拜部 十七人
一月十日 御拜部 共々書部 八人
（その外この御拜部より御り候事）

東京
赤坂北川町十七番地
三浦忠長三郎様
御署名



一月念二

大阪東區島町一ノ八

須藤少峰

三月廿五日 郵部 十七人
一月十五日 郵部 廿五人
八月十八日 郵部 八人

東京
1-2

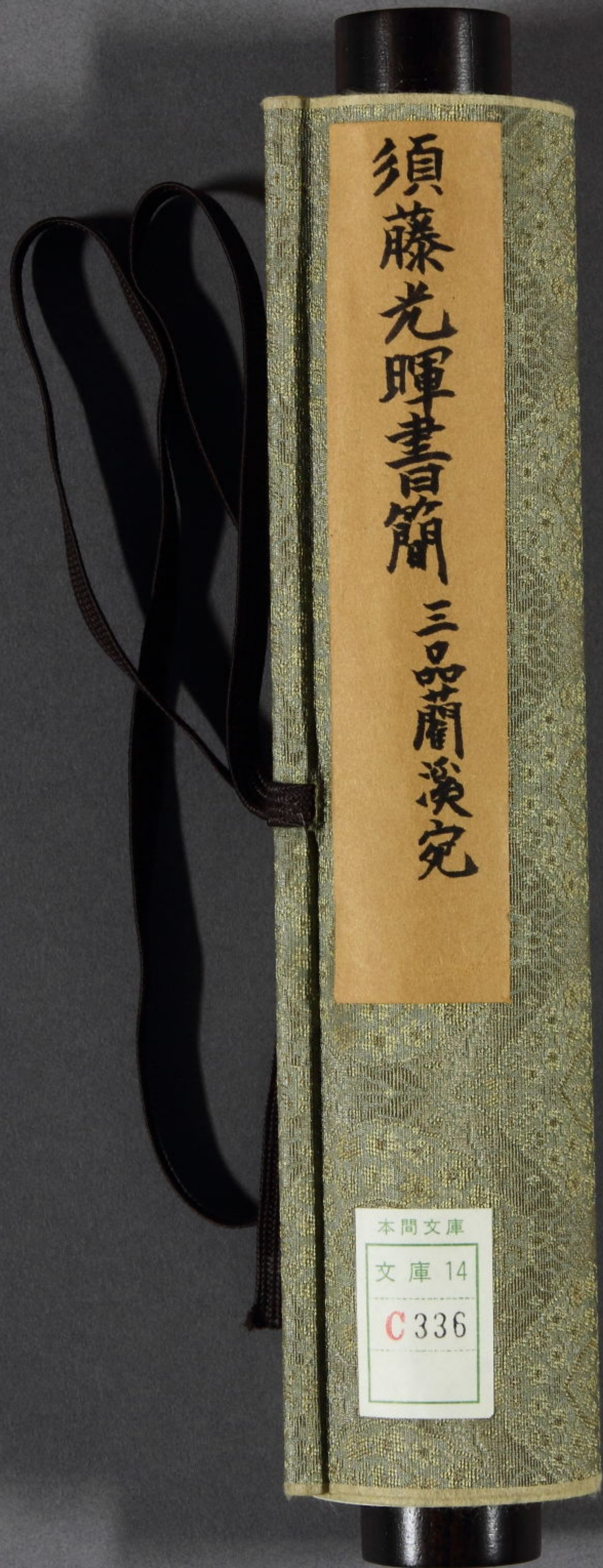
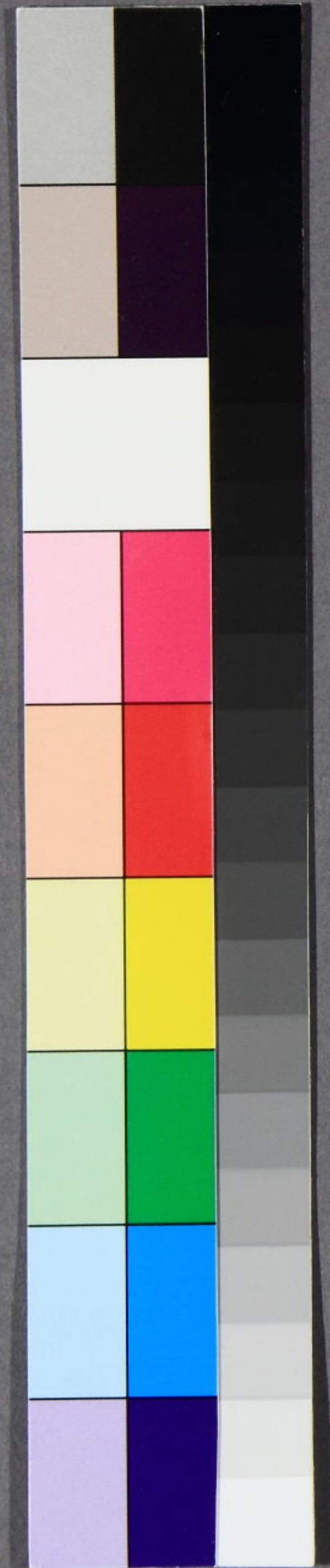
赤坂北川町十七番地
三品長三郎様

三品長三郎

一月念二

大阪東區島町一ノ八

須藤少将



須藤光暉書簡

三品蘭溪宛

本間文庫
文庫 14
C 336





須藤光暉書簡 三品蘭溪宛

本問文庫
文庫 14
C336

Handwritten text on the back cover, including the name 須藤光暉 (Sudō Mitsugu) and the recipient's name 三品蘭溪 (Sanpin Rankei).

